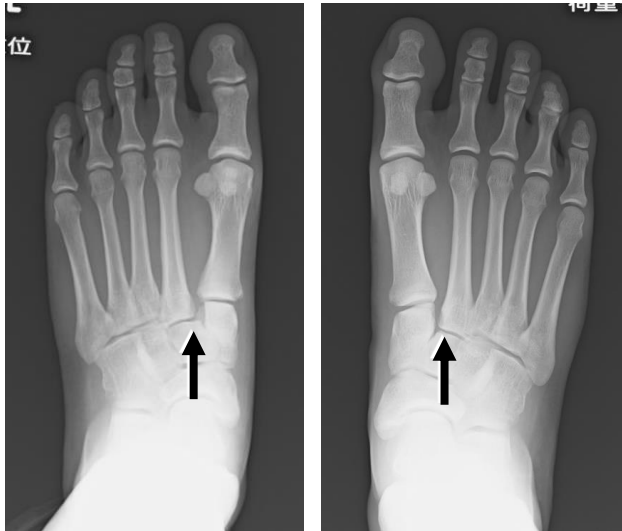


リスフラン靭帯損傷

足の甲の捻挫の多くがリスフラン（Lisfranc）靭帯の損傷によるものです。はっきりと捻った覚えがない場合でも、強く踏み込んだだけで起こることがあります。痛みが強く、歩行が困難となります。医療機関を受診してもレントゲン写真で異常を認めず、「軽い捻挫」とされることが多い疾患です。体重をかけての足のレントゲン写真を左右で比較することにより診断できますが、痛みのためしっかりと踏ん張れないと診断は容易ではありません。



体重をかけて撮影したレントゲン写真です。左の矢印部分の骨の隙間が右に比べて広いのがわかります。足の甲にある細かい骨を結ぶ靭帯が切れたことによりです。

レントゲンの異常が少ない割に痛みが強いという特徴があります。スポーツ中の足の甲の捻挫、あるいは踏ん張った動作などで強い痛みが出た場合にリスフラン靭帯損傷を疑います。

離開の大きなものは手術の適応です。一方、レントゲン写真で左右の差がみられないものは、足底挿板などによる保存治療が可能です。



手術治療では金属製の螺子や特殊なワイヤーによる整復固定が行われます。手術をしてもすぐに運動に復帰することは難しい捻挫です。

この他に慢性化したものには靭帯再建術や関節固定術などの治療法があります。

また、慢性化したものは局所の消炎剤注射が効くことがあります。